

痛みが出てから松本医院受診まで

9年かかった方の経過報告。

## 「私のリウマチ治療記（治療中）」匿名希望

55歳

2016年7月19日

痛みに出会ってから松本先生にお会いできるまで9年。松本先生にお会いしてから5年目。まだ治療中ではありますが、治療の経過を報告したいと思いません。

2002年も終わろうとしている頃、朝起きるとなんだか右肩に痛みがあり「どうしたんだろう・・・？」とこれが私と痛みとの出会いでした。この痛みは、その日の夜にはさらに強い痛みとなり、肩を動かすこともできないほどの激痛へと変わり、夜通しこの痛みは続き、寝返りも打つことができないほどの激しいものでした。一体どうしたんだろう……。暮れも押し迫り、その日は病院も休み。なんとか一軒、ご自宅で整体をやっておられる方を捜し診てもらうことにしました。

整体の効果があつたのか、2、3日でその痛みは嘘のようになりすっかり良くなったと思っていました。それから2週間が過ぎる頃、今度は左肩に痛みを覚えました。前回の右肩と同じだ・・・とすぐわかりました。その痛みは時間とともに強くなり、またしても一晩中の激痛。私はまた整体に走りまわりました。そして前回同様、2、3日で痛みは嘘のように消え、不思議な程でした。念の為に整形外科に行き、レントゲンを撮ってもらいましたが、骨には何の異常もなく、さっぱり原因もわかりませんでした。そしてこのおかしい痛みは転々と箇所を変えて、私の関節を襲ってきました。手首、膝・・・痛みがくればろう人形のような手になる程パンパンに腫れあがり物を持つことも、動かすこともできません。膝も同様、丸太のように腫れあがりました。足の甲はかまぼこのように腫れ、まともに靴が履けませんでした。

2003年、整形外科で血液検査を受けるも、CRPは正常。湿布や痛み止めで何とかしのいでいました。2003年11月。家族の心配もあって今一度しっかり病院で診てもらうことになりました。というのも普段の私の生活と言えば、3人の娘の子育て、家業の飲食店での夜遅くまでの仕事、不規則極まりない食生活。自分の体が痛みを襲われているにもかかわらず、お店の仕事を休む

事ができない毎日でした。それを見かねた両親が私を引っ張るように病院へ連れて行きました。そして血液検査を受けましたが、リウマチ反応はなく、それでも4日分のプレドニンが処方されました。4日分きちんと飲んだものの痛みは治まらず、「この薬を飲んでも治まらないということは、もう次に出す薬はない。」と言われ、今思えば、プレドニンを飲まなくてすんだことはラッキーでした。ただ体がとても疲れていて栄養失調状態であるからとにかく生活習慣を変えるようにということでした。

2004年、5月。友達の勧めもあって膠原病の専門の先生に診てもらう事になり、その病院でも血液検査を受けましたが、リウマチ反応はありませんでした。「症状がリウマチである」という判断で、その日は山のようにリウマチのお薬が処方されました。お薬の飲み方というビデオを見せられ、なんだか恐ろしくなり、不安でいっぱいでした。「症状がリウマチである」という判断だけでこの薬を飲んでいいのだろうか？何種類もの薬を目の前にしての疑問と不安。その頃、新聞でもリウマチのお薬のことが色々とりざたされたこともあって、私は迷っていました。悩んだ挙句、私はこの薬を飲まない決断をしました。（飲んでいたらもっと大変なことになっていたと思います。）痛みはありましたが、生活のリズムを変えたり、食生活を見直し（飲食店をやっていたため、不規則な食事、夜遅くの暴飲暴食、甘いものの摂り過ぎなどから野菜中心の食事、ゆっくり噛んで食べる等・・・）ただ強い痛みがある時は、痛み止めを飲んでいました。

2009年、体調を崩して実家に戻っている私に声を掛けてくれたのが、Gさんでした。地元の同級生でもあるGさんは、私のことを聞き、煎じた漢方をポケットに入れ訪ねてきてくれました。彼女は20代の頃、リウマチになったということとその時初めて知り、看護婦さんである彼女がリウマチ治療のために色々なことを試して行き着いた所が松本医院であることを話してくれました。

毎日漢方を煎じて飲む事、鍼灸治療、そして先生のお考えが絶対にステロイドを使わない！！ということや、アトピーを出す事で体の中に溜めこんで来た毒素をアトピーに変えて外に出すこと！私はGさんの話を聞き、松本先生の理論や手記をまず読んでみました。しかし、松本先生にお会いできるのはこの2年後になるのです。

2011年2月28日。9年目にしてやっと松本医院のドアを叩く日が来ました。中に入ると漢方薬の何とも言えない匂い。でもこの匂いは私にとって嫌な匂いではなく、むしろ少しほっとするような感じでした。やっとたどりついたという気持ちもあったかもしれませんが、中は待っている人でいっぱいでした。どのくらい待たただろう、中に呼ばれる前にお灸と鍼をすませました。診察室に入ると、「遠いところからよく来たね。」と先生は力強く握手をしてくれました。そして今でも必ず言われることですが、「病気は私が治すんじゃない。あなたが治していくんだよ！」と言われました。今日から漢方で治療していくんだ・・・先生の指導のもとで頑張ろうと思いました。

2011年12月。眼の周りに赤い湿疹が出始めました。眼頭から始まり、まぶた、数日で両眼（まぶた）がパンダのように真っ赤に腫れ上がり、顔全体に広がり始めました。痒みとヒリヒリする痛み、眼はパンパンに腫れ、目やにが出始め、皮膚から汗が出始めました。顔全体がすごいことになっている。夜、布団に入って、顔に布団が触るだけで痛くて目が覚めました。そしてここからがすさまじいのです。赤くなったその皮膚から出る汗はティッシュで拭きとってもベタベタ状態。夜中に何度も目を覚まし、ガーゼを顔に当てて寝ることも。それは想像を絶する汗の量でした。「クラススイッチ！（リウマチをアトピーに変える）」先生が言っておられたのはこれなんや……。そのアトピーは首までも下がってきました。先生に言われたように入浴用の漢方を煎じ、顔の湿布用に取り分けます。お風呂では漢方湯で何度も顔を洗い、汗が出ている皮膚は洗顔後はバリバリつっぱるので黄色の軟膏。傷のあるところは赤の軟膏と毎日出勤する前には取り分けておいた漢方湯で洗顔、湿布、そして軟膏……。それを続けるうちに次第に腫れはひき、赤味もおさまり、嘘のように顔がきれいになりました。2ヶ月は痒かった気がします。そしてこのアトピーが出ている間は、痛みも和らいでいたと思います。

その後調子の良い時は漢方も食前の1種類となりましたが、調子の良い事を理由に、3ヶ月も漢方を飲まないでいて、その後やはり痛みがぶり返し、先生にひどく叱られた事もありました。自己判断で自分勝手にしていた事を反省しました。

2015年4月、もともと肩の痛みから始まったのですが、この年の1月頃からなんだかすっきり取り切れない痛みが肩にありました。今までなら痛みがきても2、3日でとれていたのに……。そして4月、両腕の内側に筋肉痛。服に手を通りしたり腕を上げたりする時に痛みがあり、関節の痛みとはまた違って辛いものがありました。2種類の漢方薬にアシクロビル1日8錠でしたが、1日12錠に増やしていただき、会社でのラジオ体操も腕が上がるようになりました。朝はやはりこわばりがありますが、アシクロビルで痛みが和らいでいるのがよくわかります。アシクロビルは保険が効かないのが悲しいです。

まだ治療中の段階ではありますが、「病気は誰が治すの？」という先生の問いかけに「病気は自分が治す。」という意志を持ってこれからも先生のご指導のもと、免疫力を高める努力をしていきたいと思えます。

「病気を治すのは自分の免疫力である。」先生よろしくお願ひ致します。